

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 長野県長野市南長野幅下 692-2
管理機関名 長野県教育委員会
代表者名 教育長 原山 隆一

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

2020年4月10日(契約締結日)～2021年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 長野県白馬高等学校
学校長名 臼井 彰一
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築

4 研究開発概要

- (1) PBLの実践を通してのカリキュラム, アセスメントの開発
- (2) 地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬SDGsラボ」の設置
- (3) 地域と連携した授業を推進するためのコンソーシアムの設置

5 学校設定教科・科目の開設, 教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

6 運営指導委員会の体制

(1) 運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
白戸 洋	松本大学総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 教授	
岸 清美	白馬ロータリークラブ 会長 オーブス株式会社 代表取締役	
柴田 友造	白馬山麓事務組合 支援局長補佐	
伊藤まゆみ	白馬村議会 議員	

(2) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年7月9日	第1回会合 ・今年度の活動内容についての協議 ・今後のカリキュラム策定に向けた可能性について協議（地域との接点や学習課題の模索等）
令和3年2月17日	第2回会合 ・今年度の活動内容についての報告 ・来年度の事業計画について

(3) 学校運営協議会

令和2年 7月 9日 第1回

令和2年 11月 16日 第2回

令和3年 2月 17日 第3回

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
松本大学総合経営学部	教授 白戸 洋
信州大学キャリア教育サポートセンター	センター長 平野 吉直
白馬村	村長 下川 正剛
小谷村	村長 中村 義明
株式会社岩岳リゾート	代表取締役社長 和田 寛
八方尾根開発株式会社	代表取締役 倉田 保緒
しろうま荘	支配人 丸山 俊郎
ホテルシェラリゾート白馬	代表取締役 内海 二郎
白馬東急ホテル	総支配人 吉野 良平
白馬インターナショナルスクール準備財団	代表理事 草本 朋子
長野県教育委員会	教育長 原山 隆一

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	柳田 優		非常勤
地域協働学習支援員	丸山 俊郎	しろうま荘支配人	非常勤

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				↔							↔	
コンソーシアム								↔				

(2) 実績の説明

- ① 運営指導委員会：事業関連の取組の説明，意見交換及び指導
 - 令和2年7月9日 第1回（白馬高校会場）
 - 令和3年2月17日 第2回（オンライン）
- ② コンソーシアム担当者会議：事業計画の確認，新しいカリキュラム開発のための意見交換
 - 令和2年11月16日 コンソーシアム担当者会議

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教科横断型 PBL					←				→			
白馬 SDG s ラボ ワークショップ 開催			←			→						
コンソーシアム の構成団体との 共同事業			←			→			←			→
運営指導委員会				↔							↔	
校内実行委員会	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔

(2) 実績の説明

研究開発を通して実証する仮説

（研究を通して実証する仮説）
 仮説1：「学際的な教科横断型の学びと PBL が両立したカリキュラムを開発し，生徒が主体的に学びたくなる環境の整備を行うことで，探究的な学びが深まる。」

ア 1年生での取組

(ア) 観光 I

① 取組内容

探究基礎学習（協働性，チームワーク，建設的な批判，情報収集・分析力，論理的思考力，プレゼンテーション力，多様性，倫理観の育成）

- a チームビルディング（話をする，話を聞くワーク）
- b 教科学習 全国と長野県の，地域調べ，観光 MAP 作成
- c 思考法の学習（クリティカルシンキング）

オンラインによる外部講師による連続講義

講師 株式会社タイガーモブ 代表 中村寛大 氏

講義内容

- 第1回 クリティカルシンキングとは
- 第2回 マインドセット
- 第3回 リフレクション

※白馬でのフィールドワーク実施予定であったが，
 新型コロナの関係で中止。事前講義のみ実施。



d 白馬の地域の現状と課題について

白馬駅周辺のインタビュー調査



調査内容を発表



② 取組の成果

チームビルディング，教科学習，PBL の活動を行った。新型コロナウイルスの影響で，新学期はオンラインによる顔合わせになった。学校への登校が開始された6月以降，感染症対策に留意しながらグループワークを試行錯誤しながら実施した。その結果，オンラインを活用した外部講師による連続講義が実施できたほか，対面での話し合いの貴重さの発見など今まで漠然と行っていた教育活動について，教員側が考える契機となった。

③ 課題・今後の展望

実社会で起こっていることを起点に社会の現状，課題について考えることをすべての生徒に意識付けをさせるための授業を構築する必要性を感じた。今年度，思考法としてクリティカルシンキングについての学習を行い，生徒は概念的な知識を得ることはできたが，最終のアウトプットのレポートを見たところでは，情報を構造的に捉えるところまでは至っていないことがうかがえた。

(i) 異文化理解

① 取組内容

「調べる，まとめる，英訳する，発表する」活動を通して社会，世界について関心を高める。

a 自分の興味のある国を一つ選び，衣食住について調べ，まとめる

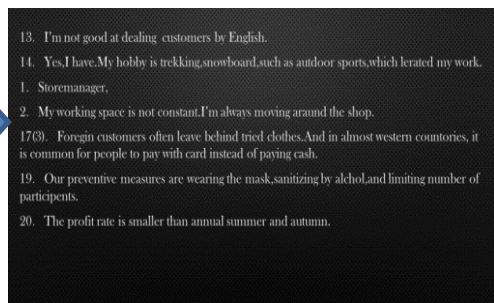
b 職場インタビュー，なりたい職業，興味のある職業を調べる

- ・生徒が8グループに分かれて職場インタビューを実施。
- ・教室で，訪問先での様子をインタビュー形式で再現し，他の生徒に報告する。英語でまとめて英語で発表。

<訪問先> ペンションくるみ，アメリカンドラッグ，山や，絵夢，デリシア
ヤマトヤ，パタゴニア，ペンションボーゲン，コメリ

<発表例> (訪問先：パタゴニア)

<回答の英訳>



c 総合的な探究の時間での学習内容を英訳して発表

- ・SDGsの17の目標について興味のあるものを調べる（総合的な探究の時間）
- ・調べた内容を英訳し発表する。

② 取組の成果

生徒は興味を持って取り組むことができた。また、白馬の現状について観光と結びつけて考える部分も見られた。プレゼンテーションを6回実施し、回を重ねるごとに人前で上手に話せるようになった。

③ 課題・今後の展望

発表は回数を重ねるごとに上達していったが、発表内容については今後さらに広く深く考えさせる方策が必要である。今後は外部講師や観光Iでの体験的な実習と併せて発表を行っていききたい。

イ 2年生での取組

(ア) 観光コミュニケーション英語

① 内容

白馬 English Tour Guide 11月27日(金)実施

・地元在住の方がツアー客として参加。生徒と一緒に各所を巡りながら英語でガイドを行う。

・自分たちが住む地域を知り、ツアー参加者に白馬の魅力を紹介する。

I バסטツアー <学校⇒白馬ガラス工房 Gaku⇒ジャンプ台⇒道の駅⇒学校>

II ウォーキングツアー

<学校⇒スノーピーク⇒ザ ノース フェイス グラヴィティ ハクバ⇒
パタゴニア⇒足湯⇒コーヒースタンド⇒学校>

② 取組の成果

模擬ツアーの発表会では、地元の観光事業の方をお招きし、班ごとにアドバイスをいただいた。専門家にコメントをいただけたことで生徒のツアーに対する振り返りでの理解が深まった。今回はSDGsというテーマ型の観光ツアーを企画させることで、社会課題にも関心を持つことができた。

③ 課題・今後の展望

新型コロナの影響で、現地に直接赴くことはできなかった。現在観光業界で取り組んでいる感染症対策も学びながら、リアルなツアーができるように改善していきたい。

ウ 2, 3年生での取組

(ア) 2年 観光II 3年 グローバル観光

① 取組内容

Edtechを活用したHP作成のためのHTML学習 「Life is Tech Lesson」

a HP作成のためのHTMLとCSSの学習。

b 地域の魅力を発信する。

オリジナルHPの作成。

② 取組の成果

個別に段階的に取り組むことができ、生徒は自分のペースで学びを進めることができた。地域の魅力を紹介するWebサイト作りでは、他者に注目されやすいように工夫をして創作することができた。

③ 課題・今後の展望

Webサイト作成のプログラミングは根気を必要とするため、生徒の意欲を高め続けることが必要である。また、今後は観光施設の見学やインタビュー調査を行い販売促進につながるWebサイト作成ができるような事業展開を行いたい。

エ アセスメントの作成

校内の課題解決委員会を中心に、本校の育てたい生徒像を基にしたアセスメントを作成し、プレ調査を行った。

(ア) 育てたい生徒像

「多様な文化、考えに触れる中で地域の素晴らしさを理解し自分の考えを発信するとともに、地域の課題解決に主体的に行動できる生徒の育成」

(イ) 育成する力

5つの資質を育成するための15のスキル、マインド

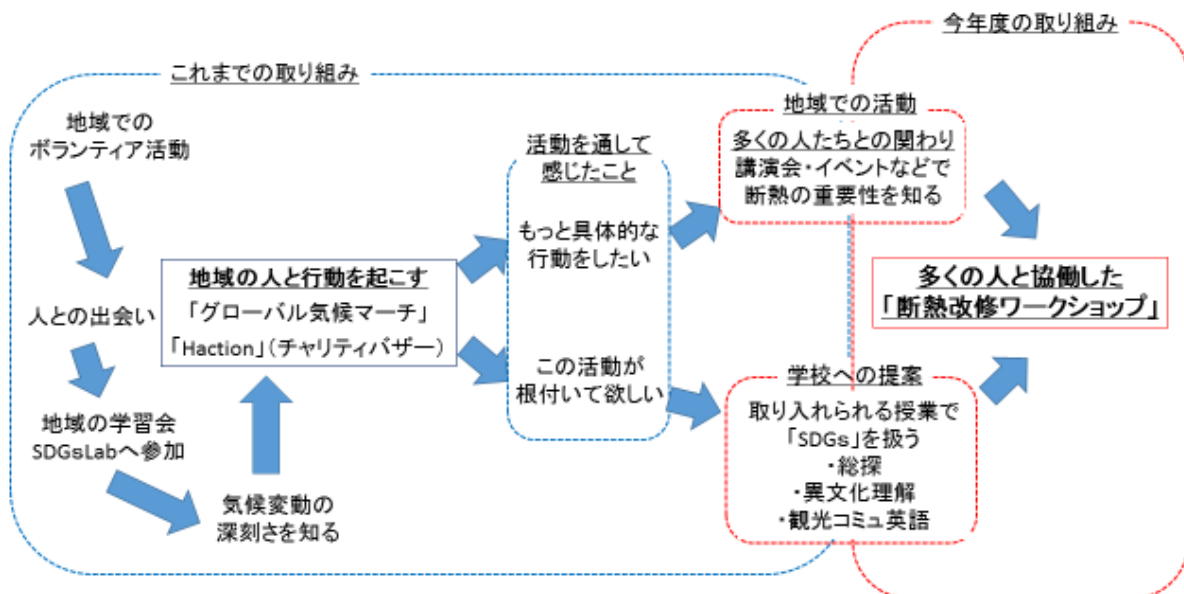
- ・主体性（計画立案実行力，タイムマネジメント，チャレンジ精神）
- ・協働性（フォロアーシップ，多様性の尊重，リーダーシップ）
- ・社会性（基本的読解力，地域理解，社会への関心）
- ・探究性（情報収集，情報分析，プレゼンテーション）
- ・キャリアデザイン（キャリアビジョン，社会と自分の関係性，よりよい社会の創造）

（研究を通して実証する仮説）
 仮説2：「生徒と地域の人々がSDGsをテーマに学び、実践活動を行う『白馬SDGsラボ』の設置とSDGsワークショップの開催、及びSDGsの目標13『気候変動を軽減させる取組』の実践をすることが、探究的な学びの実現につながる。」

ア 地域の人と協働したプロジェクトの実践「断熱ワークショップ」

教室の断熱改修工事を生徒と地域の人が協働して行う〔1年 総合的な学習の時間〕

『教室の断熱改修ワークショップ』



(ア) プロジェクト説明会・断熱に関する専門家によるオンライン講義



(イ) 有志生徒と地域の人、専門家と協働した教室の断熱改修工事



イ SDGs 出前授業

- ・白馬中学校3年生に向けて SDGs に関する本校の取り組みをオンラインで紹介
- ・白馬北小学校4年生に向けて SDGs に関する授業を実施



ウ 浜松開誠館高等学校と SDGs に関する学びの連携協定締結

調印式・生徒交流 いずれもオンライン 12月21日(月)



(研究を通して実証する仮説)

仮説3:「地域をフィールドにした学習活動を推進するための『白馬コンソーシアム』の設置により、本プログラムに対する包括的な支援体制を組むことによって、生徒の探究的な学びを深めることができる。」

コンソーシアム構成団体との協働事業

(1) グローバル講演会

開催日 10月21日(水)

会場 ウイング21

講師 株式会社岩岳リゾート 代表取締役社長 和田寛 氏

演題 世界水準の「オールシーズンマウンテンリゾート」を目指して
～白馬で、リゾートで働く意義～

(2) 教室の断熱改修プロジェクトワークショップ

開催日 9月19日(土)～21日(月)

会場 白馬高校3B教室

内容 教室の断熱改修をワークショップ形式で実施

11 目標の進捗状況、成果、評価

仮説1「学際的な教科横断型の学びとPBLが両立したカリキュラムを開発し、生徒が主体的に学びたい環境の整備を行うことで、探究的な学びが深まる。」に関する項目

ア 教科学習への効果

実用英語検定 合格状況(1月22日現在)

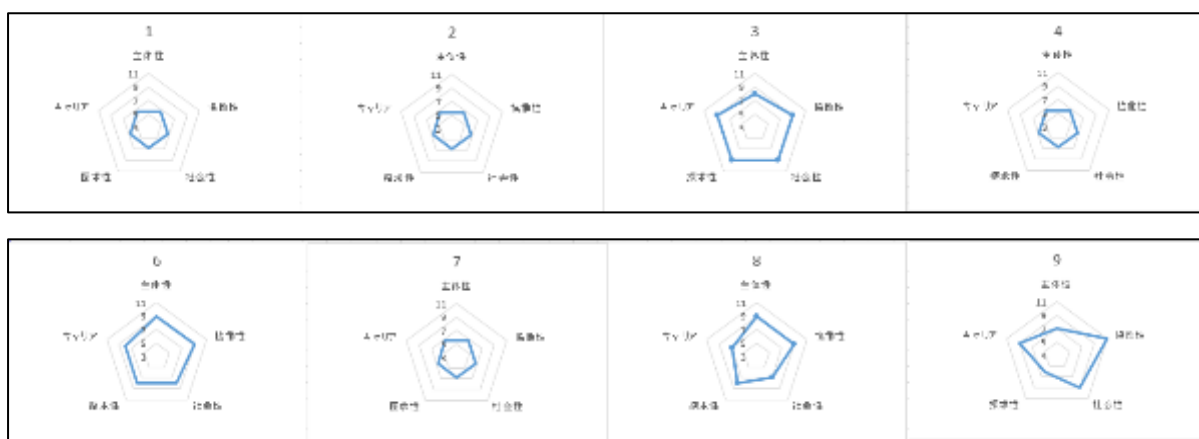
実用英語検定試験において、上位級の準1級にチャレンジし、合格する生徒がでてきた。

種別	合格者数	昨年同期	在籍生徒累計
準1級	5	1	6
2級	6	3	11
準2級	8	3	23

イ 育てたい生徒像に対応するアセスメント開発とプレ調査

育てたい生徒像に対応するアセスメントを作成しプレ調査を行い、個別に5つの力の現状の自己評価についてフィードバックできる仕組みの構築を行った。

下図のようにクラスごとに生徒の自己評価をレーダーチャートにし、担任が面談時の資料として使えるようにした。生徒ごとに学習成績以外の特性をデータとして示すことができた。



仮説 2 :

「生徒と地域の人々が SDGs をテーマに学び、実践活動を行う『白馬 SDGs ラボ』の設置と SDGs ワークショップの開催、及び SDGs の目標 13『気候変動を軽減させる取組』の実践をすることが、探究的な学びの実現につながる。」に関する項目

仮説 3 :

「地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬コンソーシアム」の設置により、本プログラムに対する包括的な支援体制を組むことによって、生徒の探究的な学びを深めることができる。」に関する項目

教室の断熱改修ワークショップ

(ア) 参加者数

生徒 19人 一般 23人

(イ) アンケートでの感想など

参加者アンケートでワークショップの満足度が高かった。断熱についての知識、意義についての理解が深まったという感想がほとんどであり、参加者に断熱の有効性の理解を深めてもらうという目的は達成できた。また、当日は多くのテレビ、新聞などの取材があり、断熱改修の意義について広く普及させることもできた。

<添付資料>目標設定シート

12 次年度以降の課題及び改善点

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、本校の強みである「リアルな現場での実習」「対面での人との関わり」の部分に制約があり、思うように事業を進めることができなかった。そのことから本校の教育活動は「リアルな現場での実習」と「対面での人との関わり」に強く

依存していることが明らかになった。

アセスメントの作成では、生徒に身につけさせたい5つの資質と15のスキル・マインドを整理し、4段階の自己評価指標（別表1）を作成した。今年度は前述の事情により、リアルな対面実習場面での具体的な行動や言動、成果物などを集約・精査して到達段階を設定するところまで至らなかったため、最終年度の取組を行う中で、各教科共通で使える他者評価のためのルーブリック作成につなげたい。

（別表1）学びの自己評価アンケート

※番号を一つ選び、の中に記入してください。

A＜主体性＞ 計画立案実行力・タイムマネジメント・チャレンジ精神

①計画や目標を立てて物事に取り組むことができたか？（例：考査に向けて、進路実現に向けてなど）

4：よく取り組めた 3：まあ取り組めた 2：あまり取り組めなかった 1：取り組めなかった

②時間を有効に使うことができているか？（例：毎日、2時間机に向かい、学習している、スマホの使用時間を守って使っているなど）

4：よくできる 3：まあできる 2：あまりできていない 1：できていない

③新しいことや困難なことにチャレンジする意欲があるか？（例：TOEIC700点以上、英検2級以上、漢検2級以上を目指すなど）

4：よくある 3：まあある 2：あまりない 1：ない

B＜協働性＞ フォロアーシップ・多様性の尊重・リーダーシップ

①グループワークに積極的に参加することができるか？

4：よくできる 3：まあできる 2：あまりできない 1：できない

②自分とは異なる意見や価値を尊重しているか？（例：グループワークの場で、他人の意見や反対意見に対して耳を傾けることができるなど）

4：よくしている 3：まあしている 2：あまりしていない 1：していない

③自分の得意分野であれば、自分が主体となって行動することができるか？

4：よくできる 3：まあできる 2：あまりできない 1：できない

C＜社会性＞ 基本的読解力・地域理解・社会への関心

①教科書を理解しながら、読み進めることができるか？（例：自ら教科書を読みながら、予習・復習することができるなど）

4：よくできる 3：まあできる 2：あまりできない 1：できない

②白馬、小谷地域の環境、産業、文化、生活等について理解を深めているか？

4：よくできる 3：まあできる 2：あまりできない 1：できない

③さらに視野を広げ、世界や異文化に関心をもっているか？

4：よくある 3：まあある 2：あまりない 1：ない

D＜探究性＞ 情報収集・情報分析・プレゼンテーション

①自分が関心をもったことやわからないことを図書館やインターネットを活用して調べたり、必要な情報を入手したりすることができるか？

4：よくできる 3：まあできる 2：あまりできない 1：できない

②入手した情報を活用して自分の考えを効果的にまとめることができるか？（例：パワーポイントを使ってスライドを作成することができる）

4：よくできる 3：まあできる 2：あまりできない 1：できない

③人前で、伝え方を工夫して、自分の考えを発表できるか？（例：プレゼンを行うことができる）

4：よくできる 3：まあできる 2：あまりできない 1：できない

E<キャリアデザイン> キャリアビジョン・社会と自分の関係性・よりよい社会の創造

①学校生活全般をとおして自分が将来こうなりたいという見通しを持つことができているか？

（例：自分の将来について）

4：よくできている 3：まあできている 2：あまりできていない 1：できていない

（その場合）

⇒その見通しに対して今、何をしなければならぬか理解をしているが、実行はできていない。

1：はい 2：いいえ

⇒その見通しに対して今、何をしなければならぬか理解もしているし、実行もできている。

1：はい 2：いいえ

②社会と自分とのつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えているか？

4：よくある 3：まあある 2：あまりない 1：ない

③社会をよりよくするため、社会課題の解決にかかわりたいと思うか？

4：よくある 3：まあある 2：あまりない 1：ない

【担当者】

担当課	長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課	TEL	026-235-7435
氏名	卯之原 智也	FAX	026-235-7495
職名	指導主事	e-mail	kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp

ふりがな	ながのけんはくばこうとうがっこう	指定期間	2019～
学校名	長野県白馬高等学校		2021

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2020年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 地域課題解決のためのプロジェクト学習の実施回数						単位： 回
a	本事業対象生徒：		2	2		4
	本事業対象生徒以外：		1	1	0	2
目標設定の考え方：仮説1の実践の行動としての目標						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 高等学校卒業時の地元就職率						単位： %
b	本事業対象生徒：		5	5		6
	本事業対象生徒以外：		4	4		4
目標設定の考え方：仮説3の期待される効果としての目標						
(その他本構想における取組の達成目標)						単位：
c	本事業対象生徒：					
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2020年度)
（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標）						単位： 件
a	地域課題解決のための実践をとまなう政策提言を行った件数					
	1	0	2	4		4
目標設定の考え方：仮説1の期待される効果としての目標						
（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標）						単位： 回
b	生徒が地域をフィールドにした学習活動に関わる内容について校外の方を対象に発表、報告を行った回数					
	5	5	6	6		8
目標設定の考え方：仮説1の実践内容を言語化し、他者へ伝えるための目標						
（その他本構想における取組の具体的指標）						単位：
c						
目標設定の考え方：						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2020年度)
（地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標）						単位： 人
a	白馬SDGsラボの地域の方の参加人数					
		0	5	15		10
目標設定の考え方：仮説2の実践の結果としての目標						
（その他本構想における取組の具体的指標）						単位：
d						
目標設定の考え方：						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数（人）	210	210	205	181	181
本事業対象生徒数			72	160	216
本事業対象外生徒数			136	59	0